

広報支援業務 ー 図の作成

技術部先端技術支援室 小野 数也・千貝 健

技術職員の仕事内容は多様化している。さらに、納期が明日までであるような突発的な仕事を含んでおり、我々はそれらに柔軟に対応できる能力を身につけなければならない。広報に関しても、我々技術職員の担う仕事は様々である。その中から、科学研究費などの申請に使用する外観図・模式図の作成について紹介する。

依頼内容

内 容：科研費申請用のオホーツク海を取り巻く観測計画図の作成

条 件：用意した図（海底地形図）を編集し、そこに観測機材等の絵を貼付ける。

またプレゼンテーションでも使用するので、PowerPoint を作成する。

原図の編集から完成まで

図 1 に依頼された図の作業工程を示す。原図 a には必要の無い図も表示されていたので、その部分を消して海底と空のグラデーションを描いた (b)。次に陸地部分、右側が切れてしまっているので、引き延ばした。氷河で観測する掘削機を重ね合わせるため、ある程度陸地を白く塗り雪山に見立てた (c)。最後に観測測器などを作成し、原図の修正図と PowerPoint で重ね合わせた (d)。なお b の時点で原図のままでは機器などを重ね合わせるには全体の色合いが濃いため、色調のレベルを補正し薄くした。原図、完成図の全体図は割愛した。原画の修正には Tgif、GIMP、Adobe Illustrator、Adobe Photoshop を用いた。状況に応じて様々なソフトウェアを使用している。

おわりに

我々が行っている広報支援業務の一例として、科研費申請用の図の作成を紹介した。他にも様々な図を作成しているが、図 2、3 はその一例である。作図をするという作業一つをとっても、様々なソフトウェアを操作する能力、海底地形作図等に用いるデータ処理能力、さらには依頼者がどのような図を求めているかを理解する能力（研究に使用する図を作ろうとすれば、ある程度研究内容を把握する必要はある）等の様々な能力が必要である。そして、我々の仕事は作図だけではない。多様化する仕事内容に柔軟に対応できるよう、様々な能力を身につけていきたい。

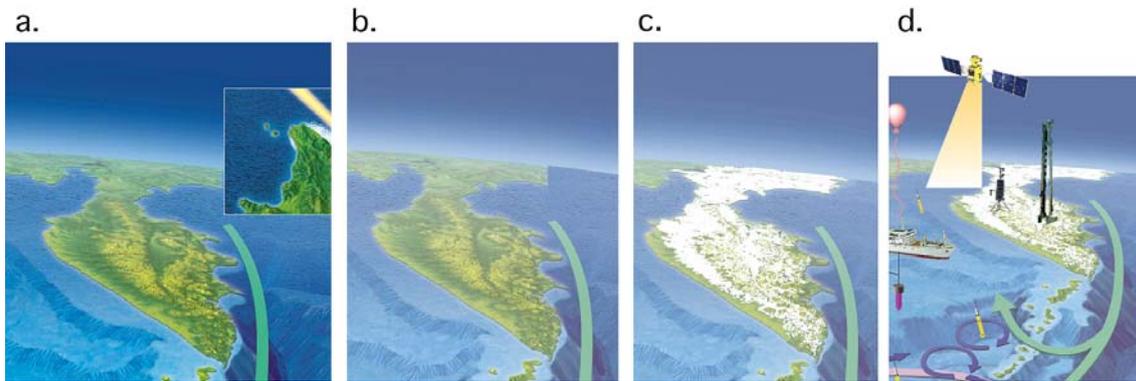


図1. 作成した図の一部分。a. 原図、b. パネル図を外してその部分の海底地形と空を描写、c. 原図修正図、d. 完成図。作業日数は約5日/2人。

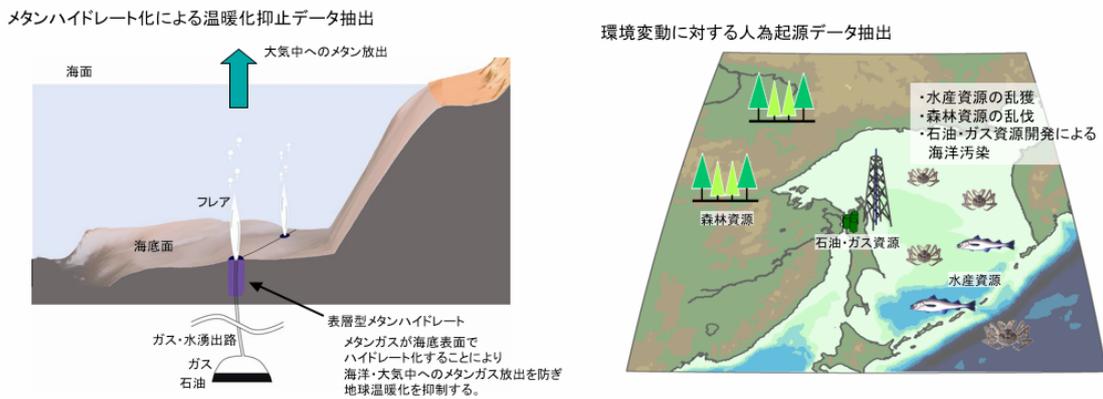


図2. 科研費申請のために作成した図の例。両者とも Tgif、Photoshop Illustrator で個々の図を作成して、仕上げに PowerPoint で重ね合わせた。右図の地形図には ETOPO2 (オンラインデータ) を使用した。二つで作業日数は約1日/2人。



図3. 環オホーツク観測研究センターの看板 (左図)、それをもとに作った同センターHP トップページの画像 (右図)。作業日数は約1日/1人。